

銚子市ゼロカーボンビジョン (概要版)

2023年3月策定
2025年2月改定
2026年8月改訂



はじめに

銚子市は2021年2月、「ゼロカーボンシティ銚子」を表明しました。市民や民間事業者との官民協働によるオール銚子の体制で2050年までに二酸化炭素などの温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指します。

現在、銚子市の南沖合の海域では大規模な洋上風力発電設備の導入計画が進められています。



銚子市の特徴である1年を通して吹く強い風は、これまでマイナスのイメージもありましたが、風の力を電気に変える、再生可能エネルギーとして利用することで新たな地域資源として注目されています。

再生可能エネルギーの導入は温室効果ガスの削減だけではなく、まちづくりに活かすこともできます。銚子市が出資する地域新電力「銚子電力株式会社」と連携し、再生可能エネルギーの地産地消により、エネルギーと経済を地域内で循環させることで、銚子が元気になる仕組みをつくるとともに、災害に強いまちづくりを進めていきます。

銚子市ゼロカーボンビジョンの基本方針は、「豊かな自然環境を活かし、持続可能な銚子を未来につなぐ」です。銚子の魅力を次世代につなぐため、「市民」・「民間事業者」・「行政」が協働してゼロカーボンシティに取り組むことが必要です。

持続可能な銚子の未来を共に創っていきましょう。

2025年2月

銚子市長 越川 信一



ゼロカーボンシティ銚子

近年、台風や豪雨など地球温暖化が原因とみられる災害が多発・激甚化しているように、地球温暖化による気候変動は私たちの生活に深刻な影響を与えており、地球温暖化を食い止めることは喫緊の課題となっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が広く共有され、この目標を達成するには「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

銚子市においても、自然豊かな環境を未来につなげるため、洋上風力発電などの再生可能エネルギーを推進し、市民や事業者との官民協働によるオール銚子の体制で2050年までに二酸化炭素などの温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、取り組むことを表明します。

令和3年2月16日

銚子市長 越川 信一

右上に本編の該当章節を記載↑

●	ゼロカーボンビジョン策定にあたって	
1	銚子市ゼロカーボンビジョンの背景と基本的事項 ゼロカーボンビジョン策定の背景・目的、ゼロカーボンビジョンの基本事項	3
2	ゼロカーボンビジョンで目指す銚子市の姿 ゼロカーボンビジョン推進の基本方針、2050年の銚子市の姿(イメージ) ゼロカーボン実現に向けて、ゼロカーボンがつくる未来	7
3	温室効果ガスの削減目標と取組の推進 2050年ゼロカーボンに向けた取組の方針、ゼロカーボン推進ロードマップ 再エネ導入目標、2030年に向けた再エネ導入方針	14
4	温室効果ガス排出量、再エネの導入状況、その他 市域のCO2排出量、市域の再エネポテンシャルと導入実績、 市役所のCO2排出量※1、市役所の温室効果ガス排出削減目標、 推進体制、銚子市ゼロカーボンシティ推進協議会	24

※1:地方公共団体実行計画(事務事業編)の対象施設(市の公共施設など)からの排出量は、
「市役所の排出量」と表現している。

1

銚子市ゼロカーボンビジョンの背景と基本的事項

本編第3章

策定の背景・目的

地球温暖化は、人間の生活や自然の生態系に様々な影響を与えています。国内においても、平均気温の上昇、大雨、台風などの自然災害の甚大化、農作物や生態系への影響などが観測されており、将来的にさらなる深刻な影響が生じることが懸念されています。

地球規模の課題である気候変動問題の解決に向け、平均気温の上昇を産業革命以前と比較して1.5℃に抑えようという世界目標が掲げられていますが、すでに約1.1℃も上昇しており、より一層の対策が求められています。

世界目標達成のためには、地球温暖化の原因となっている温室効果ガスの排出を2050年頃までに実質ゼロにする必要があると言われています。そのため国は、2030年度に2013年度比で46%削減し、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラル(ゼロカーボン)を目標に掲げています。

銚子市では、自然豊かな環境を未来につなげるため、2050年までにCO₂などの温室効果ガス排出量の実質ゼロに向けて取り組むことを表明しました。

「ゼロカーボンシティ銚子」の実現に向け、目指す銚子市の姿を示すとともに、そこに至る道筋を描くため、令和5(2023)年3月にゼロカーボンビジョンを策定しました。

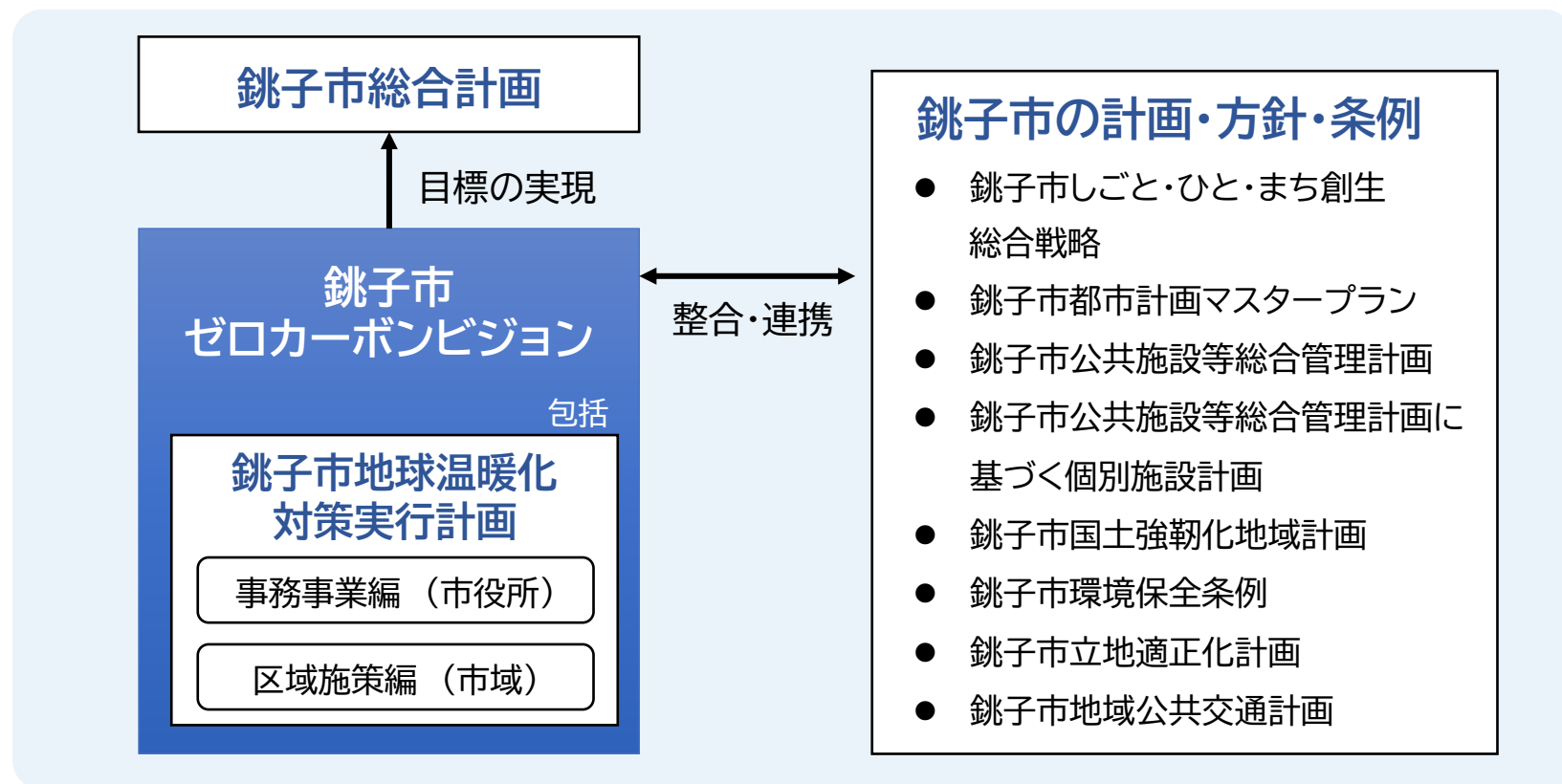
今回のゼロカーボンビジョンの改定では、別途策定していた「地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」と「同実行計画(区域施策編)」の未策定部分を包含した計画としています。

計画期間

- 短期の目標年度を2030年度とし、計画期間は2030年度までとします。
- 長期目標として見据える範囲は、ゼロカーボンを目指す2050年までとします。

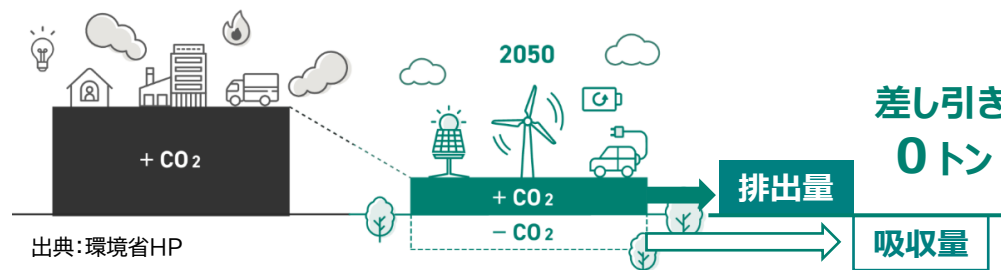
ビジョンの 基本方針

- 銚子市総合計画、銚子市公共施設等総合管理計画などの関連計画と連動し、実効性のある地球温暖化対策を推進することとします。
- 地球温暖化対策実行計画の事務事業編と区域施策編を含むこととします。



ゼロカーボンの考え方

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林や都市緑化などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにします。



対象とする温室効果ガス

本ビジョンでは、二酸化炭素(CO₂)を削減目標の対象とします。

市域の排出量		
対象とするガス種	部門	分野
エネルギー起源CO ₂	産業部門	製造業
		建設業・鉱業
		農林水産業
	業務その他部門	
	家庭部門	
	運輸部門	自動車(貨物)
		自動車(旅客)
		鉄道
非エネルギー起源CO ₂	廃棄物分野(一般廃棄物)	
その他	吸収源 (森林、都市緑化によるCO ₂ 吸収量)	

市役所の排出量※1	
ガス種	排出源
CO ₂	市が所有する公共施設等の施設・設備(燃料・電気)
	公用車の利用

※1:地方公共団体実行計画(事務事業編)の対象施設からの排出量は、「市役所の排出量」と表現している。

2

ゼロカーボンビジョンで目指す銚子市の姿

本編第1章

～ 豊かな自然環境を活かし、持続可能な銚子を未来につなぐ ～

銚子市は、三方を水に囲まれ、利根川河口から君ヶ浜、犬吠埼、屏風ヶ浦に至る海岸線は、砂浜あり、岬あり、断崖絶壁ありと、変化に富んだ雄大な景観美を織りなしています。

また、日本有数の水揚げ量を誇る銚子漁港、「夏涼しく、冬暖かい」気候を活かした農業、歴史と伝統を実感できる醤油工場に加え、これらの産業基盤から産出される豊富で新鮮な食材や特産品など、多くの地域資源に恵まれた魅力あふれるまちです。

さらに、太陽光発電・風力発電など再生可能エネルギーの適地として知られ、2028年には、銚子市沖で洋上風力発電の稼働も予定されています。

本市では、豊かな自然からつくられる「美しい景観」・「安心で安全な食」・「地産エネルギー」といった銚子の魅力を未来世代につなぐため、オール銚子でゼロカーボンシティの実現を目指します。





銚子市の課題

災害レジリエンス
の強化

社会・環境の
変化への対応

地域経済の
活性化

観光や賑わいの
増加

将来世代の
確保・育成

課題を解決し、未来につなぐための取組

再エネで経済をプラスにする
災害に強くする

エネルギーを低コストで効率よく使う

脱炭素*できれいな空気と安心を保つ

洋上風力と連携して銚子創生を実現する

オール銚子で未来につなぐ

ゼロカーボンシティ

くらす

はたらく

あつまる

くらす

「おだやかな気候」「安心」「低コスト」

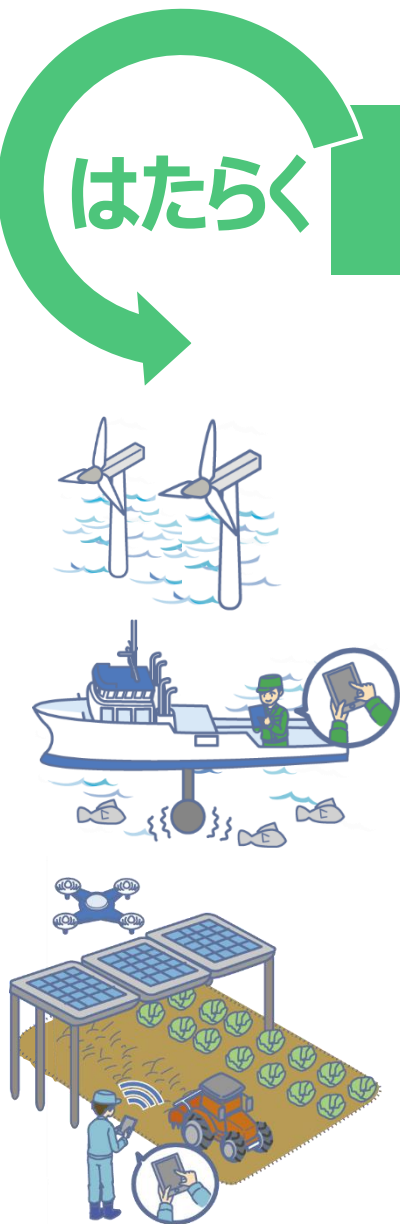
- 銚子の気候を活かした住宅で、太陽光や風力で発電された電気を使って快適に暮らしている
- 子どもたちが環境についての理解を深め、再エネのある暮らしを誇らしく感じている
- 低炭素公共交通システムやEVカーシェアリングなどで、快適に移動できている
- エネルギーは見える化され、自動で最適化されている
- 災害時にも利用可能なエネルギーが確保されている
- 市内の緑地や海の環境が保全されている



はたらく

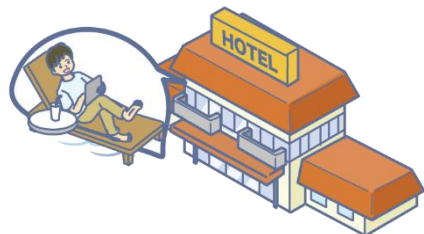
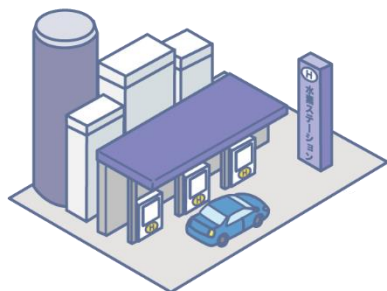
「伝統」「地域循環」「銚子ブランド」

- 地産地消の再エネ電力でつくられた「銚子産」に価値がついている
- エネルギーが市内で循環し、光熱費を抑えながら産業が成長している
- デジタル技術の活用により海の状況がリアルタイムに把握でき、安定した漁獲量が得られている
- AI(人工知能)やロボットを活用したスマート農業により、従業者の身体的負担が軽減され、経営の安定・効率化が図られている
- 洋上風力発電が地域に活力を与えており、地域共生型再エネ事業「銚子モデル」を発信している
- 再エネを活用したグリーン水素やゼロカーボン燃料が地域で利用されている



あつまる

「豊かな自然」「新鮮な食」「再エネのまち」



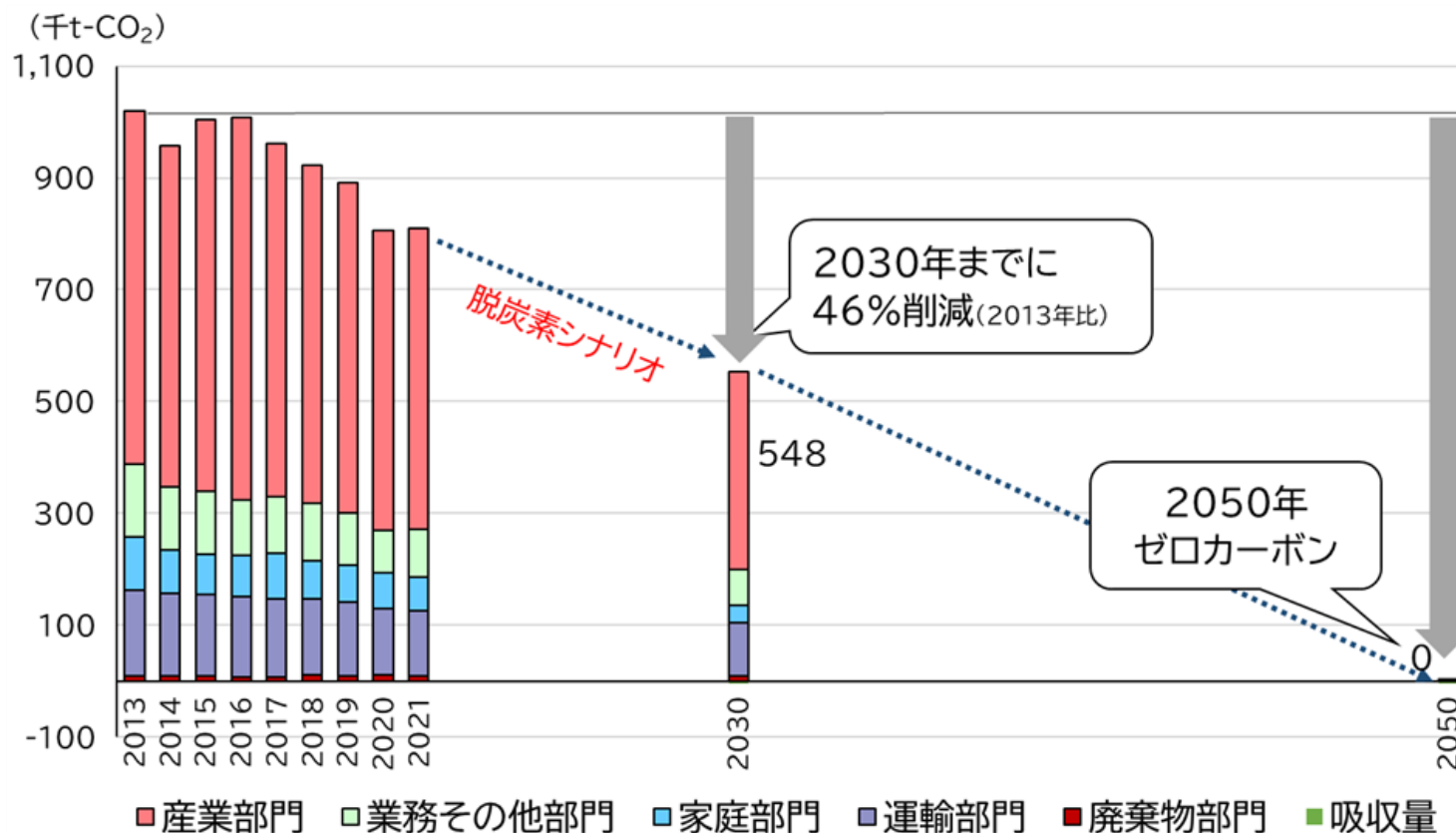
- 銚子でしか食べられない、新鮮でおいしい食を求めて人が集まっている
- 温泉や景勝地の魅力に加え、洋上風力発電の先進地として知られており、視察や観光に多くの人が訪れている
- 再エネを活用した水素ステーションや充電スポットが市内に整備され、CO2排出ゼロのバスや自動車が走っている
- 美味しい食、豊かな自然、クリーンなエネルギーを魅力に移住・定住・ワーケーションが増えている
- 他地域との往来や連携が増え、関係人口が増加している

3

温室効果ガスの削減目標と取組の推進

本編第5章、第6章

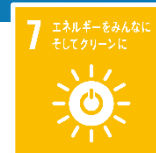
- 市域の温室効果ガスの排出削減目標は、国の目標を踏まえて設定を行いました。
- 2030年までに2013年度比で46%の削減を目標とし、さらなる高みとして50%の削減を目指します。
- 2030年目標の実現に向けては、次のページ以降に記載する再エネ導入や省エネなどの施策を積み上げていきます。
- 2050年にカーボンニュートラル(ゼロカーボン)を目指します。



1 再エネで経済をプラスにする・災害に強くする

銚子市内には、風、太陽光、未利用バイオマスなど、まだまだ多くのポテンシャルがあります。再エネの地産地消によって、エネルギーと経済が地域内で循環し、銚子が元気になる仕組みをつくとともに、災害に強いまちをつくります。

※銚子市では、風力発電設備の設置について遵守事項を定めています。生活環境や自然環境に配慮した、再エネの適切な導入を進めます。



2 エネルギーを低コストで効率よく使う

ゼロカーボンのためには、エネルギーや資源を効率よく使うことが重要です。健康で快適な暮らしを維持しながらCO2排出量を減らす取組を進めていきます。



3 脱炭素できれいな空気と安心を保つ

日照時間や風速など自然状況に左右される再エネを無駄なく活用していくためには、蓄えて使うことも有効です。動く蓄電池として、災害時の移動電源としても期待されるEV/PHEV/FCVの市内導入を進めるとともに、緑化やブルーカーボン生態系によるCO2吸収源対策を進めていきます。



4 洋上風力と連携して銚子創生を実現する

今後、運転開始が予定されている洋上風力発電は、大規模な再エネが導入されるだけでなく、地域に活力を与える取組も期待されています。海の環境保全や地域のレジリエンス*強化に向けた検討を進めていきます。



5 オール銚子で未来につなぐ

ゼロカーボンシティの実現には、「行政」・「市民」・「民間事業者」がそれぞれできることを実施するとともに協働して取り組んでいくことが不可欠です。エネルギーや資源が循環する仕組みづくり、子どもたちや地域への環境教育などを通じて、銚子の豊かな環境を未来へつなげていきます。



CO2排出量

2030年

46%削減※

2050年

実質ゼロ

1



再エネで経済を
プラスにする・
災害に強くする

■ 再エネの最大限設置・未利用資源の活用・災害時の電力供給体制の整備・普及啓発

- ・公共施設/住宅/事業所/低未利用地などへの太陽光発電の導入
- ・陸上風力発電設備の更新(リプレイス)/発電された電気の地域活用方策の検討
- ・未利用資源を活用した再エネ事業の推進
- ・未利用バイオマスの活用検討 など

2030年再エネ目標
2020年実績の2倍
(180MW)

・新技術(次世代型太陽
光、水素)の活用
など

2050年再エネ目標
エネルギー消費量
(電力)の100%

2



エネルギーを
低コストで
効率よく使う

■ 建物の断熱/省エネ性能向上・ZEH/ZEBの推進・廃棄物の減少・エネルギーマネジメント*・普及啓発

- ・公共施設の省エネ推進
- ・省エネ家電/高効率機器の導入
- ・DX技術を活用したエネルギーマネジメント*

- ・建物の断熱/省エネ性能向上
- ・銚子の気候を活かしたZEH・ZEBの推進

・新技術(カーボンニュー
トラル燃料など)の活用

3



脱炭素で
きれいな空気と
安心を保つ

■ EV/PHEV/FCVの導入促進と災害時の活用・農機具の脱炭素化・船舶の脱炭素化・普及啓発

- ・EV/PHEV/FCVの導入
- ・充電設備の導入・整備
- ・公共交通のCO2削減

- ・V2H充放電設備の拡充
- ・EVカーシェアリングの整備
- ・EV充電スポット/水素ステーションの拡充

・公共交通の脱炭素化
・ブルーカーボンの活用

4



洋上風力と連携
して銚子創生を
実現する

■ 雇用の創出・視察の受入れ・海洋環境の管理/保全・移住/定住の促進・グリーン水素の製造/利活用

- ・漁業との共生
- ・洋上風力発電メンテナンスの人材育成
- ・洋上風力発電事業の情報発信

- ・新たな観光資源としての活用
- ・洋上風力で発電された電気の地域活用方策の検討

・余剰電力による
グリーン水素の利活用

5



オール銚子で
未来につなぐ

■ 地産地消システムの構築・マイクログリッドによる電力需給管理・グリーンファイナンス*の推進・人材育成

- ・銚子電力と連携した再エネ地産地消システム構築
- ・ゼロカーボンプラットフォームの構築
- ・児童・生徒への環境教育

- ・卒FIT電力の地域内活用
- ・大学や高校と連携した人材育成

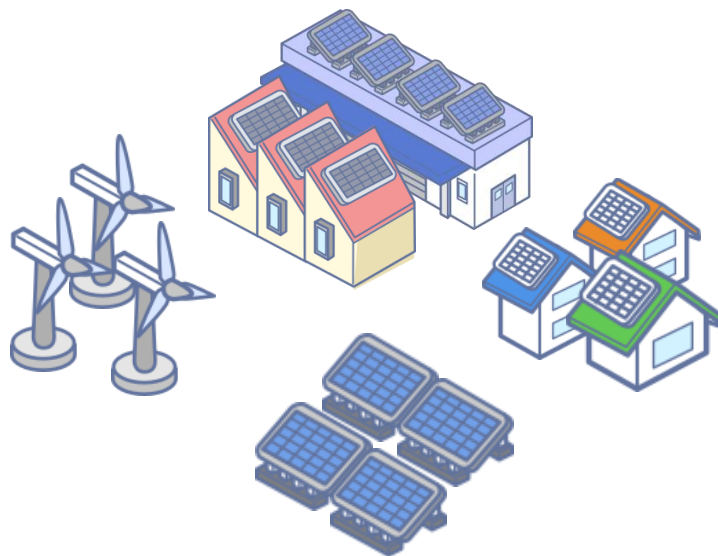
・地域の再エネ・需要家・EV・
蓄電池をつないだマイクロ
グリッドによる需給管理

2030年に向けた重点的な取組例

取組例	行政	市民	民間	施策・促進方法の例
公共施設への太陽光発電の導入	●		●	第三者所有モデル(PPA型サービス)の展開 市民・民間事業者への再エネ導入費用の助成 再エネ電力の需給契約の支援 その他にも、下水汚泥、畜産糞尿、食品加工残渣などの未利用バイオマス活用の推進や耕地・荒廃農地へのソーラーシェアリングの導入など、再エネを増やす取組を検討していきます。
低未利用地などへの太陽光発電の導入	●		●	
陸上風力発電設備の更新(リプレイス)・発電された電気の地域活用方策の検討	●		●	
住宅・事業所・駐車場などへの太陽光発電の導入	●	●	●	

2050年に向けた継続的な取組例

- ✓ 公共施設・住宅・事業所への太陽光発電・蓄電池の導入
- ✓ 低未利用地を活用した太陽光発電の導入
- ✓ 陸上風力発電設備の更新などによる発電量増加
- ✓ 未利用資源を活用した再エネ事業の推進
- ✓ 再エネ電力利用のメリットの創出、市民や民間事業者が導入しやすい仕組みの展開・普及啓発
- ✓ 災害時の電力供給体制の整備
- ✓ 新技術(次世代型太陽光、水素など)の活用



- 2030年の再エネ導入量を2020年実績の2倍にするために、方針Ⅰ～Ⅲに従って導入を進めていくとともに、洋上風力で発電された電気の活用も検討していきます。

方針Ⅰ：建物への太陽光発電の導入

方針Ⅱ：市内低未利用地の積極利用による太陽光発電の導入

方針Ⅲ：陸上風力発電設備の更新(リプレース)

方針Ⅳ：洋上風力発電の地域電源としての活用を検討

銚子市の再エネ導入目標

2030年	2020年導入実績の2倍の導入量
2050年	2050年のエネルギー消費量（電力）に相当する導入量

2030年の再エネ導入目標

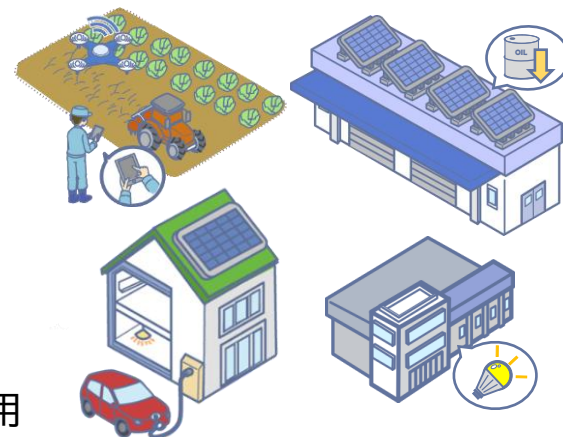
再エネの取組	導入の目安	目標導入量(MW)
公共施設への太陽光発電の導入	導入ポテンシャル(※)の20%	2
戸建住宅・工場・倉庫などへの太陽光発電の導入	導入ポテンシャル(※)の10%	16
新築住宅への太陽光発電の導入	新築住宅の50%	3
低未利用地への太陽光発電の導入	耕地の導入ポテンシャル(※)の2% 荒廃農地の導入ポテンシャル(※)の20% 市内駐車場の2% など	53
陸上風力の発電量増加	既設発電設備の20%を更新	18
計		92

2030年に向けた重点的な取組例

取組例	行政	市民	民間	施策・促進方法の例
ESCO事業を活用した公共施設の省エネ化	●			➤ 高効率設備機器への更新支援 ➤ 省エネ家電への更新支援 ➤ 児童・生徒・市民への環境学習機会の提供 その他にも ➤ スマート農業の推進 ➤ スマートメーターによる地域エネルギー需要量の把握など、効率的にエネルギーを使う取組を進めていきます。
市内の民間事業者の排出量マネジメント			●	
市民の環境意識の醸成	●	●		
建物の断熱/省エネ性能向上	●	●	●	
廃棄物の減少・リサイクルの推進、ペーパーレス化・電子申告の推進	●	●	●	
省エネ家電・高効率機器の導入	●	●	●	

2050年に向けた継続的な取組例

- ✓ 公共施設、住宅、事業所の断熱・省エネ性能の向上
- ✓ 銚子の気候を活かしたZEH・ZEBの推進
- ✓ DX技術を活用したエネルギーマネジメントの推進
- ✓ 食品ロスや廃棄物の減少
- ✓ 3R・デコ活の推進
- ✓ CO2削減の意欲を高める情報提供・普及啓発
- ✓ 新技術(カーボンニュートラル燃料、CO2吸収・固定化技術など)の活用





2030年に向けた重点的な取組例

取組例	行政	市民	民間	施策・促進方法の例
EV/PHEV/FCV導入	●	●	●	➤ 公用車のEV/PHEV/FCV導入 ➤ 市民や民間事業者に向けたEV/PHEV/FCV導入支援 ➤ V2H充放電設備の設置支援 ➤ 銚子電鉄の再エネ運行の推進
充電設備の導入・整備	●	●	●	
公共交通の脱炭素化	●		●	

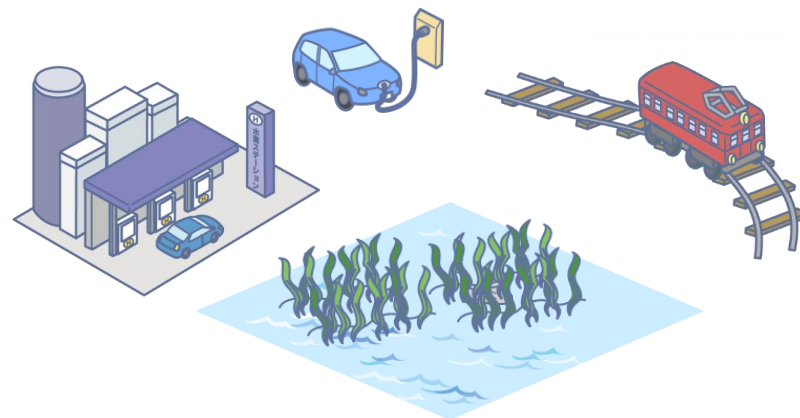
その他にも

- 平日のEV公用車利用・休日のEVカーシェアリング
- グリーンスローモビリティの導入
- 市内循環バスへのEV導入
- 災害時の電力供給におけるEV活用
- パーク&ライドの推進
- ブルーカーボン生態系によるCO2吸収源対策

など、地域にメリットが生じる仕組みを検討していきます。

2050年に向けた継続的な取組例

- ✓ CO2排出量が少なく利用しやすい公共交通の整備
- ✓ EV/PHEV/FCVの導入促進
- ✓ 災害時のEV/PHEV/FCV活用
- ✓ EVカーシェアリングの整備
- ✓ 充電スポット/水素ステーションの整備
- ✓ 緑化の推進、ブルーカーボンの活用
- ✓ 農機具や船舶の脱炭素化の推進
- ✓ 新技術(低炭素・カーボンフリー燃料など)の活用





2030年に向けた重点的な取組例

取組例	行政	市民	民間	施策・促進方法の例
漁業との共生	●	●	●	➤ ICTを活用した漁場の可視化と漁業への活用 ➤ 藻場の育成 ➤ 視察や校外学習・修学旅行の受入れ
洋上風力発電メンテナンスの人材育成	●		●	
洋上風力発電事業の情報発信	●	●	●	
新たな観光資源としての活用	●		●	

その他にも

- 洋上風力で発電された電気の地域活用方策の検討
- 洋上風力発電と連携した商品・サービスの開発

など、洋上風力発電と地域の連携を推進していきます。

2050年に向けた継続的な取組例

- ✓ 洋上風力で発電された電気の地域活用方策の検討
- ✓ 洋上風力発電メンテナンス関連雇用の創出
- ✓ 地域への環境学習機会の提供
- ✓ 視察や修学旅行・校外学習の受入
- ✓ 海洋環境の管理と保全
- ✓ 藻場の育成
- ✓ 地場産品への環境的価値の付加
- ✓ 余剰電力によるグリーン水素の利活用
- ✓ 移住・定住の促進

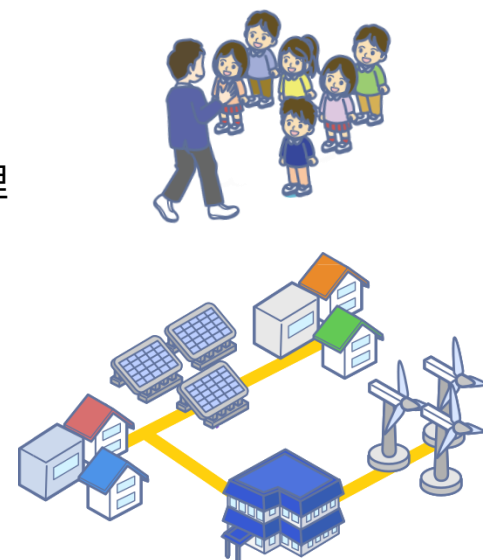


2030年に向けた重点的な取組例

取組例	行政	市民	民間	施策・促進方法の例
銚子電力株式会社と連携した再エネの地産地消システムの構築	●	●	●	➤ 地域金融機関、地域施工会社、銚子電力株式会社が連携した第三者所有モデル(PPAモデル)の推進 ➤ 地域で課題解決を目指すゼロカーボンプラットフォームの構築
公共施設への再エネ電力の供給	●			
ゼロカーボン推進体制の構築・継続	●	●	●	
児童・生徒への環境教育・地域学習	●	●	●	

2050年に向けた継続的な取組例

- ✓ 銚子電力株式会社と連携した再エネの地産地消システムの構築
- ✓ 卒FIT電力の地域内活用
- ✓ 地域の再エネ・需要家・EV・蓄電池をつないだマイクログリッドによる需給管理
- ✓ 地域金融機関によるグリーンファイナンスの推進
- ✓ ゼロカーボン推進体制の構築、継続
- ✓ 児童・生徒への環境教育・地域学習
- ✓ 再エネ電力の他地域への売電
- ✓ 大学や高校と連携した人材育成
- ✓ 地域の産官学連携によるカーボンニュートラルに資する新技術の研究・開発・実用化の推進



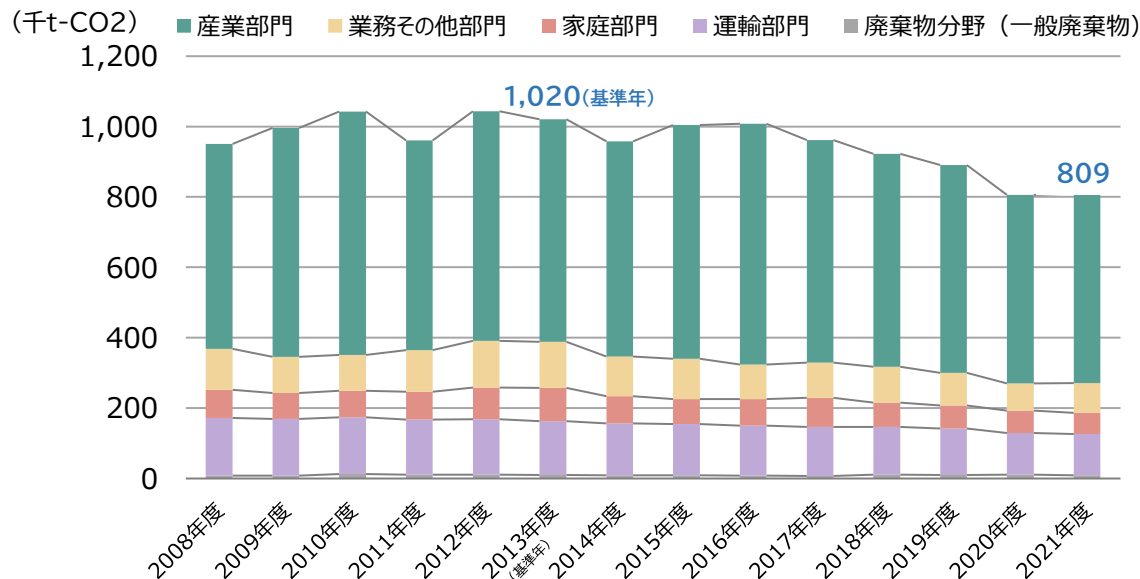
4

温室効果ガス排出量、再エネの導入状況、その他

本編第4章、他

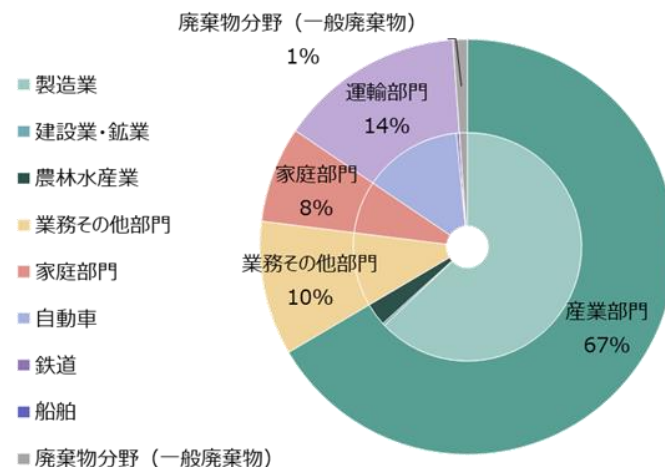
- 銚子市の二酸化炭素排出量は、80.9万t-CO₂(2021年度)です。
- 基準年2013年度比でみると20.7%削減となっています。
- 産業部門からの排出量が全体の3分の2を占めており、続いて運輸部門、業務その他部門、家庭部門となっています。

銚子市の部門分野別排出量の推移 (2008～2021年度)



出典:自治体排出量カルテ、環境省

排出量の部門分野別構成比 (2021年度)



出典:自治体排出量カルテ、環境省

※温室効果ガス排出量の把握は、環境省マニュアル(地球温暖化対策実行計画、区域施策編)に従い、「自治体排出量カルテ」を引用しました。
現在、自治体の排出量を実績値で把握することは困難であるため、カルテの値は県データの按分値となっています。銚子市の人口などの活動量が反映されたデータではあるものの、あくまで按分値となるため実態とは乖離する可能性があります。

- 銚子市は、恵まれた日射量と風況により、太陽光発電および風力発電の導入ポテンシャルが高いという特徴があります。
- 銚子市における再エネ導入量(累積)は91MW(2022年度)であり、増加傾向にあります。
- 銚子市の再エネポテンシャルには十分な余力があり、これを活用することで電力由来の排出量を削減し、区域の脱炭素化を効果的に進めることが可能となります。

市域の再エネ導入ポテンシャル

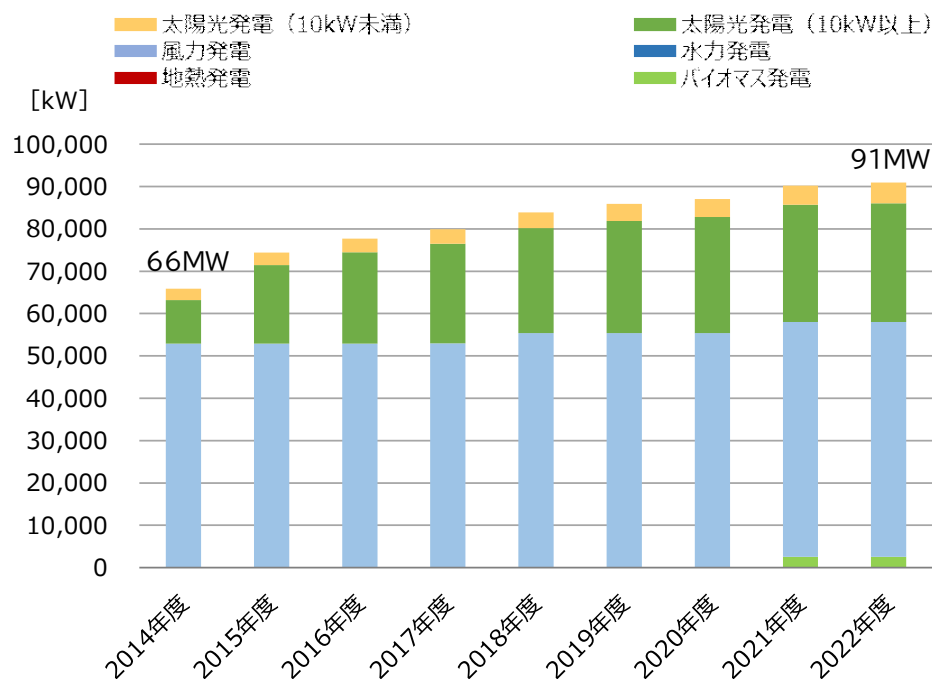
大区分	中区分	導入ポテンシャル(※2)	
		設備容量(MW)	発電電力量(GWh/年)
太陽光	建物系	331	458
	土地系	824	1,133
	計	1,156	1,590
風力(※1)	陸上風力	847	2,401
中小水力		0.1	1.0
バイオマス		0.04	0.3

※1:洋上風力のポテンシャルは市町村別に算出されていないため掲載していません。

※2:風力、バイオマスは賦存量で記載しています。また、熱利用に該当する太陽熱と地中熱はここでは含めていません。

出典:環境省「再生可能エネルギー情報提供システム(REPOS)」自治体再エネカルテ

市域における再エネ導入量(累積)の推移



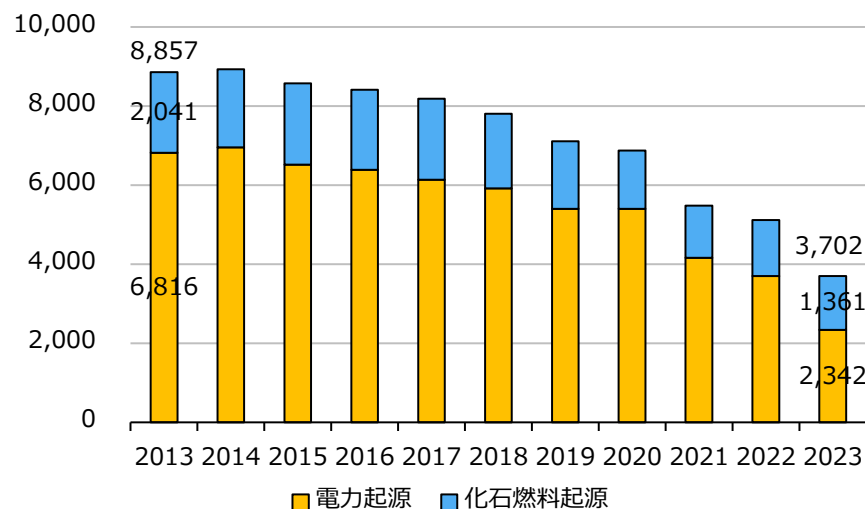
出典:環境省, 自治体排出量カルテ

注:非FITの再エネ電源も導入されていることから、実態としては上記数値よりも多く導入されていると考えられます。

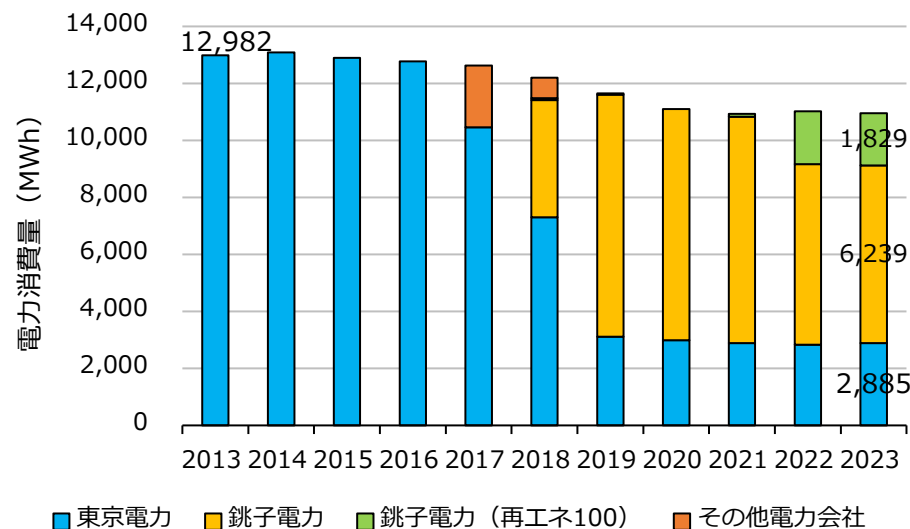
- 市役所におけるCO2排出量は、3,702t-CO2(2023年度)です。
- 基準年2013年度比でみると58.2%削減となっています。
- 銚子電力に切り替えたことなどにより、特に電力起源の排出量を削減しています。
- なお、銚子電力は銚子市内のすべての小中学校及び市立高校の全17施設に実質再生可能エネルギー100%かつCO2排出ゼロの電力の供給を開始しています。

*地方公共団体実行計画(事務事業編)の対象施設からの排出量は、「市役所の排出量」と表現しています。

市役所のCO2排出量



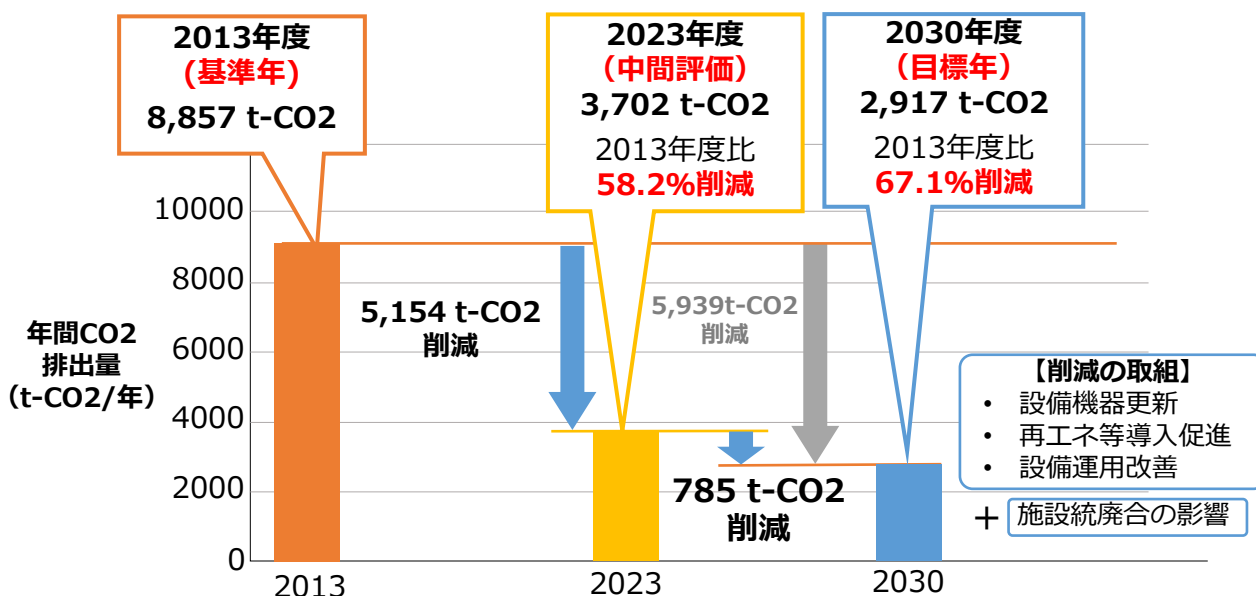
市役所における電力消費量



- 市役所の排出量*は、電力消費量の削減、銚子電力への切り替えなどにより、2023年度時点で既に2030年度の国目標を超える58.2%の削減となっています。
- 市役所には、太陽光発電設備の導入や省エネ化など、排出削減の余地が残されていることから、より高い目標を設定し、2030年度までに2013年度比で67%の削減を目指します。

*地方公共団体実行計画(事務事業編)の対象施設からの排出量は、「市役所の排出量」と表現しています。

市役所の排出削減目標

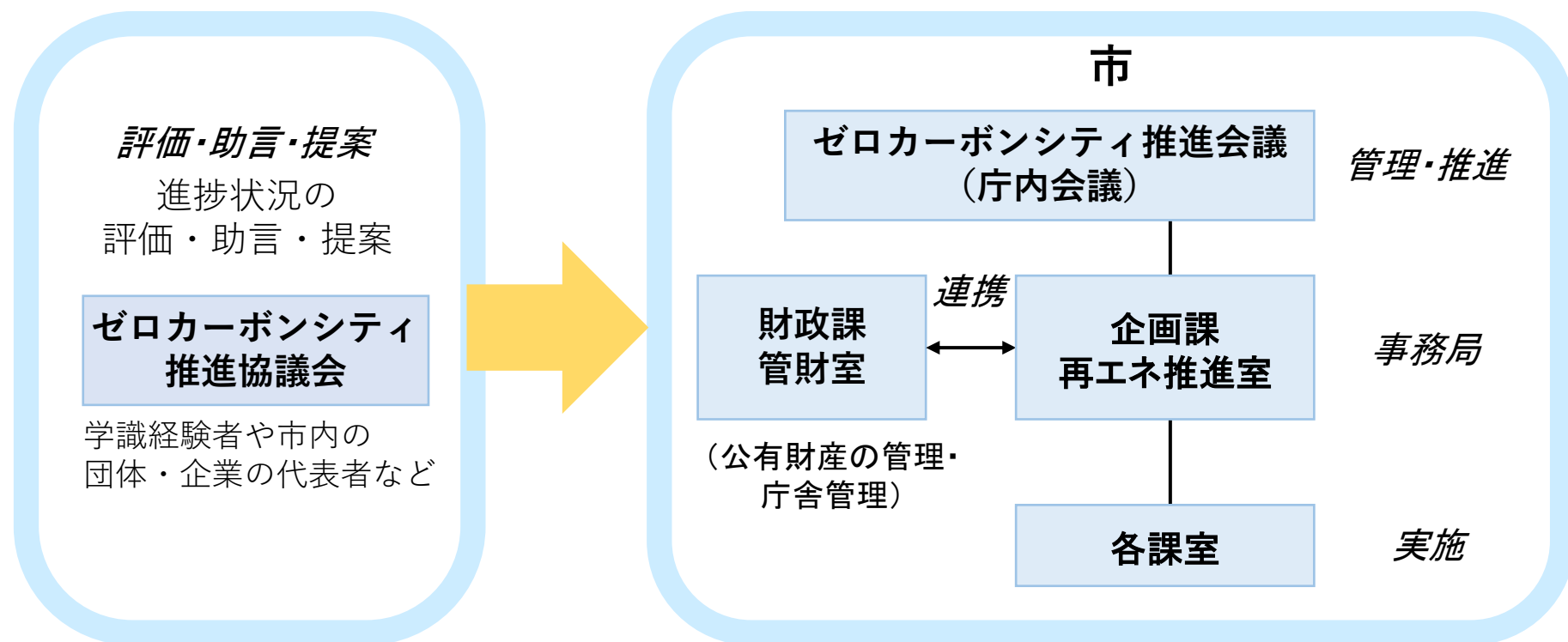


市役所における排出削減の取組

項目	取組内容
設備機器更新	・蛍光灯や水銀灯のLED化 ・空調設備の高効率な設備への転換など
再エネ導入促進	・太陽光発電の導入
設備運用改善 職員行動の改善	・既存設備機器の運用改善 ・職員の意識向上

銚子市では、下記の体制でゼロカーボンシティの推進を行っていきます。

- 銚子市ゼロカーボンシティ推進会議: 市内の管理・推進組織
- 銚子市ゼロカーボンシティ推進協議会(学識経験者や市内の団体・企業の代表などで構成):
ビジョンの実行状況などについての評価・助言・提案
- 目標進捗状況(毎年の排出状況)や推進協議会の検討については、銚子市のホームページで公表します。



銚子市ゼロカーボンシティ推進協議会

協議会の開催概要

開催日	内 容
第1回 2024年 10月31日	ゼロカーボンビジョンの改定について ● ゼロカーボンシティ実現に向けた銚子市のこれまでの経緯とビジョンの基本方針 ● 温室効果ガス排出量の推計・分析結果の報告(市域全体) ● 市域における地球温暖化対策の検討(アンケート、目標の設定、施策・取組の検討) ● ゼロカーボンビジョン改定に向けた意見交換 ● 市の事務事業(市役所)における地球温暖化対策の検討(中間評価と改定について) ● 今後のスケジュール
第2回 2024年 12月24日	ゼロカーボンビジョンの改定について ● 進捗管理方法の検討 ● ロードマップについて ● ゼロカーボンビジョン(改定版)素案 ● ゼロカーボンシティに向けた他の自治体事例とビジョン改定に向けた意見交換 ● 今後のスケジュール

委員名簿(敬称略、五十音順)

委員氏名	所 属
赤 坂 修	一般社団法人銚子市観光協会
伊 藤 剛 康	銚子信用金庫
伊 藤 秀 晃	一般社団法人銚子青年会議所
尾 辻 廣	地球温暖化防止活動銚子
木 村 栄 宏	千葉科学大学
坂 井 齊 之	ヤマサ醤油株式会社
佐 野 恭 子	銚子市町内会連合協議会
白 井 宏 治	三菱商事株式会社
新 谷 一 将	銚子電力株式会社
田 中 健 志	銚子商工信用組合
辻 勝 美	銚子市漁業協同組合
濱 口 浩 幸	ヒゲタ醤油株式会社
宮 内 彰 子	千葉県建築士会銚子支部
山 口 正 行	ちばみどり農業協同組合
山 寄 偉 広	銚子商工会議所

銚子市は、持続可能な地域社会の実現のため、
地域の豊富な資源を活用しながら「脱炭素化×地域課題の解決」を目指します。

市民の皆様や地域内外の民間事業者とともにアイデアを形にしながら、
「オール銚子」でゼロカーボンシティの未来を描いていきます。

銚子市ゼロカーボンビジョン(概要版)

2023年3月策定

2025年2月改定

2026年8月改訂

発行:銚子市

編集:銚子市企画課再エネ推進室

千葉県銚子市若宮町1番地の1

TEL:0479-24-8912/FAX:0479-25-4044